

連載

25 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (63歳・内科)

恩師に対する診療行為



在宅患者さんと言えるのでしょうか？これまでの患者さんの中に私の人生の大指導者の方々もいたのです。その中のお一人の病状は悪性疾患でした。その先生の部屋には大きな勲章が輝いていました。

先生にお会いすると、歴史上の大変革時代、その時々には認められなかった吉田松陰や坂本龍馬に話がおよびます。どうやら私がお話し相手になることで精神安定剤の効果があったのでしょう。さらに、ご自身がパイオニア精神にて研究・臨床をリードされていたため、いつも新しいお話をされるので、いつの間にか私も楽しく感化されていました。

特に“発想の転換”を重要視されていて、「二百三高地の敵陣は乃木將軍では落ちなかったが、児玉源太郎の過去の常識を

否定する戦術により新しいパラダイムの構築がなされ勝利した」と言っていました。先生はこのフレーズをよく用いられ、研究・臨床においても常にそのスタンスであったようです。

在宅医療の業務を通して、明らかに、患者さんと医師の立場を越えてはいけない境界線はあります。しかし、自然界ではお互い影響しあい進化すると言われています。

現在は、国策により患者さん中心の「ノーマライゼーション」構築が私たちに求められています。これを実践するため努力している人たちには、「白猫であれ黒猫であれ、鼠を捕るのが良い猫である（鄧小平）」の例えのように、現制度下での数々の限界を克服するよう努力し、改善を求めていくことが必要とされています。

「お医者さんが来てくれる」
質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>